

クラス	TU316B	担当教員	山本敏郎
テーマ	子どもたちの生きづらさと向き合う教育実践をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『スクールソーシャルワーカーの学校理解』 ミネルヴァ 書房 2016 年 ○『学校教育と生活指導の創造』 学文社 2015 年 ○『新しい時代の生活指導』 有斐閣 2014 年 ○『教育改革と 21 世紀の学校イメージ』 いしかわ県民教育文化センター 2000 年 ○『学校と教室のポリティクス』 フォーラム A 2004 年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」 日本生活指導学会『生活指導研究』 28 号 エイデル研究所 2011 年。		
ゼミナール概要			
キーワード：生きづらさ、生活指導、当事者性のある学び 生活者としての子ども、集団づくり etc			
目的、内容、方法、授業計画等： 今、教育方法論 A で学んでいるように、学んでいることは自分の生活には関係ないという「傍観者としての学び」を、学んでいることを自分の問題にひきつけ「当事者性のある学びへ」転換するにはどうしたらよいかを考えます。 人材(manpower, human-capital)養成のための学校から学習者の幸せのための学校へという模索も始まっています。宿題も定期試験も校則もない学校が公立学校にも登場してきました。子どもが人格(personality)として尊重される学校とはどんな学校かを考えます。 このゼミでは、こうしたチャレンジをしている全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、教育実践をつくる力を身につけていきます。 3 年生のときは、基礎的な理論（教育学に限らず、社会学、政治学、哲学も視野に入れて）を学んだり、教育実践記録の検討を行います。4 年生では研究報告を順番に行います。 FACEBOOK や LINE にゼミのページを作って、3 年生同士、3・4 年生間で意見交流や情報交換も行います。			
担当教員からのメッセージ			
① 自分が 2 年間 <u>何を学びたいか</u> をじっくり考えてください。自分が研究したいこと <u>があるかどうか</u> がもっとも重要なことです。履修カルテの文献も利用するなど、 <u>少し勉強してから</u> 相談に来てください。 ② <u>知的な人間になる努力を厭わない人</u> が来てください。卒業するころには、間違いなく、「 知る—疑う（問う）—確かめる 」力がみにつき、学ぶことが楽しいとできるようになります（歴代卒業生がそう言って卒業しているので間違いないでしょう）。 ③ 学びの空洞化・商品化・ゲーム化から抜け出したいと思っている人が来て下さい。 ④ ゼミで採用試験対策はやりません（学科の方針です）。採用試験目当ての人は来ないでください。 ⑤ ゼミファーストで学生生活を設計してください。自分のことを「生徒」（pupil）と呼ぶ人もいたり、あなたたちのことを「生徒」と呼ぶ大人もいるようですが、このゼミでは「 <u>学生</u> 」（student）であることを求めます。ですからあなたたちもわたしを teacher としてではなくて <u>professor</u> として付き合ってください。細かく管理することはしませんが、バイト・サークルファーストで <u>ゼミを軽視すると途中で追放する</u> こともあります。 ⑥ 参考までに、今 4 年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。 ○「君たちはどう生きるか」に描かれた人間形成、○教師の長時間労働問題に関する研究、○自己肯定感と承認欲求との関連についての研究、○家族のゆくえに関する研究、○感動によるマジョリティの支配とマイノリティの排除に関する研究、○ケアの倫理を内在させた正義の倫理の再構築に関する研究、○数学的な考え方を育てる学習指導に関する研究、○「伝わる」ことに関する研究、○教育評価に関する研究、○優生思想に関する教育学的検討、○道徳教育の再構築に関する研究、○ブータンにおける幸福の構造に関する研究、○「能力の共同性」論の批判的考察、○障害者の発見に関する研究、○自治と結社による部活動指導に関する研究			